

園名 天川村立天川幼稚園

はばたくなら③

特色を生かした学びのつながり

～運動遊び・食育指導を通して～

5歳児

取組について

○本園では、幼稚園から小中学校生活へ子どもの育ちを円滑につなげていくため、子ども同士の交流内容や方法、保育者の援助のあり方、相互理解を深めるための教職員との連携、幼稚園と小中学校の接続についての研修や研究を進めてきた。

○今年度は、本園の特性を生かし、小中学校体育講師による運動遊び（毎週水曜日実施）と小中学校栄養教諭による食育指導（年3回実施）を通して、「幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿」の「①健康な心と体」の発達の姿を捉えながら、幼児期から児童期へと学びをつなぐ具体的な方策について探っていきたいと考えた。

* 幼児期から児童期にわたり継続的な見直しをもちながら取り組む。

運動

小中学校体育講師による運動的な遊び（マット運動・ルールのある遊び・縄跳び・鉄棒・ボール遊び等）の指導を受け、身体の動きの基礎を経験している。運動に興味を持ち、友達同士刺激し合いながら、意欲的に取り組んでいく気持ちや達成感につなげたい。

経験した動きを基礎として、さらに発展した運動へとつなげていく時期

幼児期

食育

小中学校栄養教諭による食育指導は、給食の配膳の仕方・魚の食べ方・三角食べ・栄養素の働き・給食の作り方・箸の持ち方など、時期や子どもの様子に合った内容を工夫し、クイズ形式や写真・動画を取り入れて、給食をおいしく食べるために大切なことを指導してもらっている。幼児期に、食に関する興味や関心をもち、自ら進んで食べようとする気持ちを育てたい。

児童期（低学年）

幼児期に経験した興味や関心をさらに高め、様々な知識を身に付ける時期

実践事例「小中学校体育講師による運動遊びを通して」

子どもの姿 子どものつぶやき 保育者の援助 体育講師の関わり
----- 子どもの育ち

＜ルールのある遊び＞ ケイドロ鬼ごっこ



まずは簡単なルールでしてみよう！少しずつルールを増やすよ。グループで作戦会議しよう。

みんなの考えを出し合ってどのようにするか決めたほうがいいよ。

「どうやって攻める？」
「〇〇くんが先に行って！後からぼくが行くわ！」



じゃあ、ぼくが宝を守るから、〇〇ちゃんと〇〇くんはドロボウの隠れ家を攻めていってな。

・鬼ごっこをして遊んだ日から、意欲的に取り組んでいた。
・友達と遊びを展開する楽しさと、友達がいないとその楽しさが味わえないことに気づき、互いに誘い合っていた。

・繰り返し遊ぶことで、一人で動くことより友達の動きや周りの状況を見て、判断しながら動いて遊びを展開するようになった。
・遊びが発展していくと、子どもが互いに考えを出し合って自主的に遊びを進めていくようになった。

・みんなと一緒にすると楽しさが増すことに気付いた。
・繰り返しながら、どのようにしたらいいかを考えるようになり、友達と話し合いながら遊びを進めていくようになった。

いろいろな運動遊びを経験

＜鉄棒＞

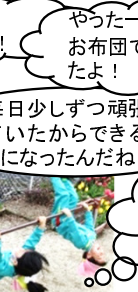
まずはツバマとお布団を頑張ってみよう！逆上がりは鉄棒にお腹を近づけて回ってみよう。手は離してはいけないよ。

ちょっと怖い～。



少しでも怖くないように、下にマットと台を置いてみよう。

やったー！ツバマできた！



やったー！お布団できたよ！

毎日少しずつ頑張っていたからできるようになったんだね。

できるって楽しい！

〇〇ちゃん、すごい！できるようになってる！私もやってみよう！

・鉄棒では、体育講師と一緒にした日から何度も挑戦していた。
・苦手意識をもった子どもには、マットを敷いたり、台を置いて高さを調節したり等、環境構成を見直すことで、少しずつ恐怖心がなくなり取り組もうとする意欲につながっていった。
・友達がしている姿に刺激を受け、自分もしてみようと挑戦する姿が見られた。

・次の運動遊びにできたところを体育講師に見てもらおうと毎日のように意欲的に取り組み、少しずつできるようになっていった。
・保育者や体育講師に頑張ったことを認められたことで、更に意欲が高まった。
・できたときの嬉しさから、諦めずに頑張ればできるんだという気持ちが湧いてきた。このことが大きな自信となり、苦手なことにも挑戦するようになってきた。

①健康な心と体

運動遊びを経験して見えてきた子どもの姿

・いろいろな身体の動かし方の楽しさに気付いた。
・何度も挑戦する意欲的な気持ちや行動が出てきた。
・友達から刺激を受け、互いに高め合っていくことがクラスに広がり、クラス全体の成長につながった。

実践事例「小中学校栄養教諭による食育指導を通して」

- 子どもの姿
- ☁ 子どものつぶやき
- ☞ 保育者の援助
- ☞ 栄養教諭の関わり
- 子どもの育ち



お箸の向きは覚えているかな？

食器の置き方を覚えようね！お箸の向きも決まっています。

- ・指導してもらったことを意識しながら配膳をしていた。
- ・給食をおいしく食べるためには、食器やお箸の置き方も大切だということが分かった。

配膳の仕方

お箸の先はこっち！

「わあー大きいお鍋やなあー」「何作ってるの？」

えーすごい量やな。

カレーライスを作っているところです。

調理室の様子 (動画視聴)

- ・器具の大きさや食材の量に驚くと共に、調理員さんの大変さを感じていた。
- ・食べ物を大切に作る気持ちや給食を作ってくれる人への感謝の気持ちをもつことができた。

何人分作っているのかな？

毎日、130人分作っています。

①健康な心と体

栄養素の働き

黄・緑・赤、3つの力を合わせると、とても強くなりますよ！

「今日は魚やで！」「赤色やな。」「ほうれん草もある！」「野菜は緑やで。」

給食の様子 (令和元年度)

*令和2年度・3年度は、コロナ対策のため、食事の仕方は、一方向で着席し黙食に取り組んでいる。

小中学校に行ったら、もっといっぱい牛乳飲むの？

〇〇先生に褒めてもらえてうれしいね！

三角食べが上手にできるようになったね！

今はコップだけど、1年生になったら紙パックになるよ！

「楽しみ！」「牛乳、飲めるかな～」

食器も大きくなるよ！

- ・保育者や友達と会話を交わしながら、みんなと一緒に食べることを楽しんでいる。栄養教諭に直接認められたことで、自信や意欲につながった。
- ・三角食べを意識し、いつも以上によく食べていた。また、栄養教諭の話を聞き、小中学校の給食がイメージできたようだ。

- ・日常的に栄養素の表を目にする中で、自然と食べ物に興味や関心をもつようになった。
- ・毎朝のメニュー交換では、友達同士で確認し、伝え合うようになり、いろいろな食材を食べることで、元気な体づくりに気付いた。

- ・村の給食部会では、小中学校の栄養教諭と幼稚園の給食担当者が給食に関する様々な情報交換、情報共有や相互理解を図っている。その話し合いの中で、
 - * 新しい環境での給食に戸惑う姿も見られず、楽しく食事をしている。
 - * 当番活動にも意欲的に取り組んでいる。
 - * 身支度や片付けを進んで行うことができる。
- など、1年生の様子を聞かせていただいた。

栄養教諭は、実際に園での給食の様子や当番活動の様子を見ることで、個々の様子(食べる量・速さ等)や当番の仕方を事前に把握することができ、入学してからの取組方法や個々の配慮につながっていると感じているようだ。

運動遊び

(まとめ)

- ・運動を取り入れた遊びを経験することで、身体を動かす心地よさを感じるようになり、もっとしたいという意欲につながっていった。その意欲が身体を動かす原動力となり、継続したらできるようになる達成感を味わうことができた。そしてその姿が友達に刺激を与え、互いに影響し合いながら成長していく姿につながった。
- ・友達同士誘い合っ一緒に遊ぶ楽しさを味わったり、互いの考えを出し合ったりしながら遊びが発展していった。
- ・日々の子どもの成長や変化を体育講師に伝え、次の運動遊びへとスムーズにつなげていくことができるような連携が大切だと考える。

(成果)

- ・週1回の運動遊びを通して、体育講師ならではの指導方法により、身体を動かす楽しさに気付く、運動遊びへの興味や関心がより深まった。
- ・一人一人に合った関わり方や環境を整えることで、意欲的に取り組むようになってきた。
- ・運動遊びから集団での楽しさや、互いの思いを出し合いながら遊びを展開していく面白さに気付く、自主的に進めていくようになった。
- ・一人一人の課題が見え、就学してからどのように関わってあげればいいのか、また就学するまでの取組方法を体育講師と一緒に考えて進めていくことができた。

(課題)

- ・今までの取り組みをこれからも積み重ねていき、運動から見てくる一人一人の発達の様子や違いを教職員間で共通理解し、学校教育のつながりを深めていく必要がある。また、一人一人に合った「ねらい・目標」をもち、運動の土台作りを重点として進めていけるようにしたい。

食育指導

(まとめ)

- ・食育指導を通して、栄養について知り、偏食が少なくなった。またよく噛んで進んで食べる姿が見られ、給食の時間が豊かになった。
- ・幼児期から、様々な食材や食事の仕方、栄養について興味や関心をもち経験を積み重ねることは、児童期における健全な食生活を促すための指導の基礎となり大切であると考え。また、給食の時間は、丈夫な体をつくるだけでなく、マナーを身に付けたり、食事を通して、人間関係や心を育むための大切な時間だと考える。

(成果)

- ・子どもは、食育指導に毎回興味や関心をもって話を聞く姿が見られた。この取組は、入学前の年長児にとっては、入学への期待が一層高まったと共に、不安に感じていた子どもにとっても安心感につながる楽しい経験の一つになっていると感じた。

- ・食育指導を通して、二人二人が進んで当番活動を行い、友達と協力しながら取り組む姿が見られた。このことが、入学してからの給食の準備や片付けなどの活動につながると感じた。

(課題)

- ・今後も、幼小中教職員間の交流を図り、幼稚園教育と小中学校教育の共通する部分や違いを知り、課題を共有し、入学後スムーズに学校生活を送ることができる方法を具体的に話し合うなど、連携強化に努めていきたい。また、栄養教諭による食育指導を通して、幼小中で継続的に取り組むことで、家庭においての食に関する意識を高めていきたい。